



# 上末っ子

令和5年9月30日

10月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧ください。

## 「相手意識」と「優しさ」

校長 内田 宏平

先日、学援隊の宅間さんから伺ったエピソードです。

「出先で雨に降られてしまって、雨宿りしていたら、車で通行した方が停車して『使ってください』と傘を渡してくれたのです。多分、上末吉小の保護者の方だと思うのですが・・・。」

感謝の言葉とともに、もし、貸してくださった方が分かれば、傘をお返ししたいと宅間さんはおっしゃっていました。右の写真の傘です。黒い傘で持ち手の部分に黒いテープが巻いてあります。お心当たりのある方は、職員室にお声がけください。



また、これは別の日のエピソードです。

放課後、職員室に電話が入りました。「学校の近くで転んでしまいけがをしている子がいる」という内容でした。担任と共に現場に駆けつけると、高学年の子が3名と保護者の方が2名、けがをしている子に寄り添ってくれていました。保護者の方は、救急車の要請やけがをした子の保護者へ連絡をし、流血を押さえるためのタオルまでご自宅から持ってきてくださっていました。高学年の子たちは、けがをした子を励ます言葉をかけてくれていました。ほどなく救急車とけがをした子の保護者が到着し、ほっと一息ついたのですが、救急車が病院に向かった後、道路についていた血を、ご自宅から運んできた水で洗い流すことまでしていただきました。

「相手意識」と「優しさ」に満ちた素敵な出来事がたくさんある上末吉の町です。

上末吉小学校の日々の中でも「相手意識」と「優しさ」が随所に見られます。

1年生が折たたみ傘をしまおうと苦勞している姿を見て、6年生がさりげなく手伝ってくれていました。脚を気にしながら歩いている下級生を見て、5年生が「大丈夫？」と声をかけてくれていました。鼻血が出てしまった子に付き添って保健室に行ってくれる子がいました。落とし物に名前が書いてあるのを見て「私が届けます」と持っていってくれる子がいました。1年生教室に顔を出して1年生と関わってくれる6年生がいました。友達がバスケットゴールにシュートを決めたのを見て「すごーい！」と心から喜んでくれる子がいました。先生が荷物を持っているときに「手伝いましょうか」と言ってくれる子がいました。

忙しい日常を過ごしていると、余裕が無くなることもあります。“忙”という字は「忄=心」を「亡くした」状態を表すのだとか（諸説あります）。

忙しいときこそ、「相手意識」と「優しさ」を発揮した言動を心がけていきたいと考えます。よい見本は、周りにたくさんありますから。

